

|                  |                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 桜田勝徳先生資料紹介                                                                                                                                                                                                        |
| Sub Title        | A note on the materials of Katsunori Sakurada                                                                                                                                                                     |
| Author           | 川崎, 史人(Kawasaki, Fumito)                                                                                                                                                                                          |
| Publisher        | 三田史学会                                                                                                                                                                                                             |
| Publication year | 1984                                                                                                                                                                                                              |
| Jtitle           | 史学 (The historical science). Vol.54, No.1 (1984. 8) ,p.97- 108                                                                                                                                                    |
| JaLC DOI         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Abstract         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Notes            | 論文                                                                                                                                                                                                                |
| Genre            | Journal Article                                                                                                                                                                                                   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19840800-0097">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19840800-0097</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 桜田勝徳先生資料紹介

川崎史人

『史学』五三卷二・三号（一九八三年七月）で、故桜田勝徳先生の研究資料が、桜田家の御厚意により慶応義塾へ寄贈され、当面の間、民族学考古学研究室が管理保存することになった旨をとりあえず簡単に紹介した。本号ではその資料のそれぞれについて、内容の紹介をし、利用の便に供することで、折角の桜田家の御好意にお応えしたい。

予め報告したように、資料は各地の民俗調査のメモや草稿、原稿類、各種文献からの抜き書き、新聞切り抜き、日常のメモなどである。これらがB6判の和紙を百枚位束ねた大福帳や、原稿用紙・大学ノート・紙片などに記されている。

桜田先生の研究業績は、大きく六つに分かれるとされる（小川博「桜田勝徳」瀬川清子・植松明石編『日本民俗学のエッセンス』ペリカン社、一九七九参照）。①漁村民俗、②船の民俗、③海の宗教的意識、④山村民俗、⑤都市民俗、⑥民具、である。今回寄贈された資料はこれら全ての分野にわたっている。のみならず、漁村に関しては漁家経営や漁業法、その訴訟問題を扱った資料もある。

桜田勝徳先生資料紹介

るなど、桜田先生が社会学や社会経済史に関心のあったことがよみとれる。この他、農村や職人、更に民族学の分野に関しても二、三のノートを残している。一般に、漁村民俗の先駆者的存在とされる桜田先生の、日常の研究活動の広さと深さを示す資料ばかりである。

今回とりあげるのは、主として桜田先生自身が集められた第一次資料である。桜田先生はほぼ毎年各地に出かけ、多くの調査を行なった。そしてその資料をもとにして、大学ノートや原稿用紙、大福帳に調査記を記している。その内容の形式は、フィールドノートや、それを文章化した記録（調査の行動を主体とし、書き順に並べただけのものや、自己の思索を重視したもの——以下これらを便宜的に日記形式の調査記と称す、多少並べかえて整理したもの——以下これを整理ノートと称す——）、或いは民俗誌として体裁を整え、項目別にまとめたもの——以下これも整理ノートと称す——など様々である。

これらの記録は、幸い桜田先生の数多い調査の大部分にわたっ

て現存している。また、これらと共に調査で集めた第二次資料（役場資料や古文書）も残されている。

以下、調査年順に個々をとり上げて内容を紹介していく。本文中、「」は桜田先生自身によりつけられた表題であり、（ ）は整理の過程で編者によってつけられた仮題である。△ ∇ は『桜田勝徳著作集』（全七巻、名著出版、一九七九／八二）収録巻名を示す。すでに収録されている資料の解説については、最少限にとどめた。尚、この稿をなすにあたって『桜田勝徳著作集』各巻の解説、及び小川博氏編『桜田勝徳年譜』（未完）を参考にした。

「向津具の初春」一、「波の橋立」二、「六島の姿」三、「島の山村」四以上△6∇は、山口県西・北海岸における一続きの調査である。これらは調査の行程をそのまま記しており、桜田先生がどのような経過でムラに入り、人と接し、話を聞き出したのかがつかめるように興味深い。この調査は漁村を歩いた初期にあたっている。海士や鯨組など、漁村民俗に関する事項を中心に調査している。この前後の時期の調査は、桜田先生の初期の代表作『漁村民俗誌』△1∇の基礎資料をなしているといえる。この調査では、この他にも講や年中行事、俗信などについて聞き書きしている。

「志賀島記」には七夕祭のあとに訪れた島の様子、及び福岡での講演会の感想や他の調査記が書かれている。志賀島に関しては、海人・香具師について多く記されているが、この大福帳のほぼ三分の一は、島の小学校にある「社会調査」という記録からの抜き書きに、若干の聞き書きを加えたものである。

島から帰った日、折口先生の講演を聴いたことが記されている。講演は、民俗学の何物たるかを知っている人に民俗学の必要をとく内容である。一体に大福帳やノートに記されている初期の調査において、恐らく桜田先生が最も気をもんだことは、ムラ人との接触であったようである。多くの調査記録にそのことが書かれている。例えば何度訪ねても敬遠されたり、たらい廻しにであったり、反対に子供の無邪気になつくの感激してみたり、或いはほんの立ち話の老人に「また来なさい」といわれ、もう会えるはずなのにと思うと却って悲しくなってみたり、である。この志賀島でも探偵と思われ、民俗なんか聞いてどうするという疑問をうけた。こうしたあとで折口先生の講演を聴くのだが、桜田先生は、この講演がこうした疑問に何も答えていないと不満に思っている点、興味深い。

「志賀島記」には、この他、福岡県三潞郡志拔書、備中浅口郡乙嶋村文書抜書、及び久留米から柳川への調査記（「江上・横溝記」）が含まれている。

「筑前巡島記」△6∇は、福岡北東部の相島・大島・鐘崎・地島での記録である。漁業・年中行事が中心となるが、鐘崎の海人に関する記述は重要である。

「松浦の島々」「江島平島記」以上△6∇は、九州北西部の島々を巡った記録である。蟹や江舟などを聞いている。件（<sup>くだん</sup>人語を解する牛）のことや、子供の好きな氏神、ペーロンの話が各地で聞かれる。

後者は、のちに『島』（一卷、及び昭和九年版、一九三三、三

四)に発表された。同じく日記形式で書かれているが、大福帳の方は桜田先生の行動を主体としているのに対して、雑誌文の方は状況を主体にしているという違いがある。

「八女紀行」△6▽は筑肥山地北麓での行動録である。猪狩や川祭のことを多く聞いている。

「甌島紀行」一・二・三は、のちに「甌島遊記」(『民間伝承』十七・十八巻、一九五三・五四)として発表されたが、紀行文の体裁であり、聞き書き内容が余り紹介されていない。大福帳の方には、年中行事や生業についての話が多く記されている。トシドンの話を大変興味深く聞いている。この調査は桜田先生にとって誠に印象深かったのか、この後の調査記録に甌島と対比させて説明している文が多いように思う。

「早良・糸島の春」△6▽は、福岡の南部山村と西部漁村の二つの調査記である。ここで、「農村人」と「漁村人」の気質を比較し、前者はものを隠し、調査に応じようとしなないことがあるのに対し、後者はあけすけでよく話すという印象を述べているのは興味深い。

「筑紫五ヶ山・日向峠・再び志賀島」△7▽はそれぞれ別の調査記。この他に「田平咄」という記録もある。いづれも短期間の調査。五ヶ山では部落のこと、山の動物や、途中一緒になった者から鉾山の話などを聞く。日向峠は背振山地北側の峠で、お丑様・田や家建て行事などを記録。田平は長崎県北松浦郡にあり、荒神社や神社のことなどを聞く。志賀島は、本文中には「追記」と記されているが、文章から判断するに、再び訪問し、一日で帰って

きた時の記録のようである。シガや猪牙船・漁について記している。

「日田紀行」△7▽では、まずバスの中から通りの車や人の数を数えている。筏・鵜飼・木挽・木屋などを聞き書きしている。

「瀬戸内海記」一△7▽は、「一」という番号が附されているが、「二」以下は見当たらない。瀬戸内海中央部の生口島及びその周辺の調査記録と、神戸での聞き書きをまとめている。生口島などではウロ船・チョロ船などを見聞きし、神戸では北前船など帆船に関して聞きこんでいる。

「出水の海」「不知火の海」以上△7▽は八代海沿岸の調査記。経済的に余り恵まれていなかったムラを訪れた苦労が語られている。船や漁の他、七郎ドンやカセディオ(カセダウチ)などの話を繰り返し聞いている。警女にも興味を示す。途中、「郷土調査」や「神社明細帳」などからの抜き書きがある。

「博多付近・近江の鰐・肥後田島」は雑多な調査記録集。博多付近ではウシドン様やアグリ網についての簡単な記録。近江では琵琶湖の舟や鰐について記している△7▽。肥後田島は備後田島の誤り。鯨網創始者伝を聞く。この他、十一月以降「筑紫郡岩戸村山田にて」「福岡市伊崎浦で」「小倉市長浜」を簡単に記し、「残島」、翌年正月末「志賀島」とつづく。残島では産土神の当屋・酒の口明け・丑のまつりなど。志賀島では社人衆・ヂリン石などを記している。このあと更に三月「糸島郡雷山村」、四月「糟屋郡篠栗町」、六月「宗像の社」を記し、宗像ではコシキ祭りのことを聞く。

「肥前の山」△7▽は背振山地南麓の調査が主であるが、翌九年七月の同山地東北側の板屋調査も含む。いづれも物名を中心とした簡単な記録。

「肥後めぐり・椎葉紀行・付阿蘇登山記」△7▽は、前二者は早川孝太郎氏との共同調査。最初のは肥後の山村から漁村へぬけた調査で、狩猟、及び日奈久の漁船や漁、球磨川沿いの鮎漁が中心となっている。椎葉では焼畑や正月行事を多く記している。阿蘇登山は阿蘇に至るまでの見聞を主体にしている。

「十島巡遊・奄美大島」△7▽はアチックミューゼアムの調査参加記。西桜島から旧十島村の殆どの島・口永良部島・奄美大島の調査記録。十島ではネーシ(巫女)・祭り・生業に関する記録が中心。ここで丸木舟に注目する。舟底を二本の木であわせ、「それ・でたらぬ時はカワラに木を入れる(△7▽三七一頁、傍点編者)」ものであるが、これは後に想定した丸木舟発達段階(「現存漁船資料による日本の船の発達史への接近の試み」△3▽)のBからCへの過渡期にあたるものであろう。しかし桜田先生は資料不足ということもあって、この十島の丸木舟については考察に加えていない。惜しまれるところである。

奄美大島は、南部を足早に一周している。ノロ・船や漁のことなどが中心。

「隠岐手帖」一・二、「八束の海辺」後者のみ△7▽は、奄美からそのまま赴く。前者はひきつづきアチックミューゼアムの調査。島前浦郷に上陸、磯物採りの口明け、船などを聞く。三度では「隠岐島訛言調査表」からの抄出や糸満人・海女についての聞き書

き。島後の原田・中村などをへて大久にいく。大久ではイカ釣り漁やカナギ、五ツ張り鯖漁などを聞き込む。「大久旧記」△4▽はこの時の調査記であるが、この「隠岐手帖」とは構成を異にしている。このあと中の海の大根島にいき、ソリコ・船ダテなどを聞く。「大根旧記」△4▽は、これに準じた構成になっている。

後者の八束はこのつづきで、単独調査。島根半島を大社までいく。美保では諸手船、七類でカナギや漁・まつり、片江では役場資料、野波で鰯地引網・正月周辺の行事、宍道湖の漁などを聞く。更に日御碕神社に至り、由緒書を写し、旧漁業のことを聞く。

「大隅百引記」一～四は山村調査の記録。方祭や門かどのことに注目している。桜田先生はこれを少なくとも一度書き直したように、そのもとになるノートが一部現存している。若干の語句が違うだけで、内容は殆ど同じである。恐らく他の調査記もこれと同じ様に何回か書き直していったのであろう。またこのノートとは別に、「大隅百引村採訪記」△4▽の原稿もある。

尚、この「大隅百引村記」四の中には、帰路に立ち寄った「豊後海辺村」「伊予浮穴村」の調査記もある。どちらも△7▽所収の文と殆ど同じ構成であるが、後者のノートは浮穴村を出るまでの記録である。

「小豆島及び大阪」は、浮穴村をたって小豆島へいくところから始まる。「小豆郡志」よりの抜き書きと若干の聞き書きからなる。牛窓へ出て西大寺より大阪に着く。京都での柳田先生の民間信仰講義をはじめ、数個の講演を筆記する。十一月には高槻から丹波へぬける「萩谷辺り」、及び「有馬郡唐櫃訪問」と題する調査

記録をのせる。

「歌垣村記」では、十二月上旬・中旬に三つの講演筆記のあと、「十二月十七日歌垣村を訪ふ——豊能郡歌垣紀行——」がつづく。株・地神様・垣内・年中行事などを聞く。これらは殆どが「歌垣村記」△4▽に納まっているようである。

「南河内・天野村、泉州二入ル出稼人」は、まず滋賀県塩津浜での問屋に関する聞き書きのあと、「南河内、天野村字小山田」△7▽となる。一統・座・協力などを聞く。「泉州堺にて」と題する記事が一頁あり、続いて「泉州二入ル紀州出稼人」について、研究者仲間より聞いた文がつく。

以上が桜田先生の福岡・大阪生活時代に行なった調査記である。これ以降、東京に住むことになるのであるが、現存資料からみる限り、これを境に調査整理の方法が異なっているように思う。これ以前は、勿論他にカードも作成したであろうが、全て所謂日記形式の、ほぼ時間を追ってまとめたノートだった。しかしこれ以降はそうしたノートが殆ど残っておらず、項目別整理ノートが主体をなしている。先生の生活環境や或いは学問観に変更があったことを示すのであろうか。

「土佐漁村」I、(漁村室戸)は、年代ははっきりしないが恐らく昭和十一年に伊豆川浅吉氏と四国を訪れた時の調査を中心にしてまとめたものと思われる。いづれも整理ノートである。前者は土佐の各漁村を、県の水産誌などをもとにして組合数・戸数・土地・漁具数などの一覧表を作成している。後者は紙きれに書いた文章や図が袋にまとめて入っている。「漁村室戸」ソノ漁業者ノ

#### 桜田勝徳先生資料紹介

将来ニ関スル若干ノ感想」と題する文章がB6のワラ半紙に七枚。室戸町の漁業権や漁業会に関する考察がA4二〇枚。他、室戸の漁場図も多数書かれている。これらは内容からも判るようには、「土佐四万十川の漁業と川舟」「土佐漁村民俗雑記」△1▽とは異なる資料である。

「揖斐記」一〇三、(美濃徳山民俗誌)一〇三は山村調査で訪れた時の日記形式の調査記、及び整理ノートである。前者は川上や広瀬などでの調査記となっている。家名・家印家・木印・正月行事などを聞いているが、一部にノートを切りとったところがあり、全体がつながらない。後者は整理ノートをファイル化してある。

うち二冊は原稿用紙に項目別にまとめたもの。部落・生業・食物など民俗誌全般にわたる。残りの一冊はそれ以前のメモ段階のもので、余り文章化されていない。神職・道場・新田義貞・口碑などからなる。「美濃徳山民俗誌」△4▽はこうしたノート類からまとめあげられたと思われる。

「山村調査・岡山県上刑部村」は、原稿用紙に記された調査記である。年中行事・農事暦・土地・戸口などを記す。同じファイルの中に、「美濃広瀬部落の出作農家」など広瀬部落に関するもの数点、及び「十島巡航手記」も含まれている。これらは、前者は『民族学研究』(五―五・六、一九四〇)に発表した同名の論文と、後者は「十島巡遊記」△7▽と、細部の文章が多少異なっているが、どちらも殆ど同じ構成である。完全原稿の一段階前のものである。

「志摩和具調査控」は、昭和十二年調査分の書類が半分散佚し

たので、後年写しかえたもの。村勢沿革・貢租関係・口銀税ニ付テのあと、「集団ニ関スル調査」△7▽、現在ヲ中心トスル農業概観などを整理している。

「岩手普代村」一・二、「岩手重須村」は海村調査である。ワラ半紙に項目別に整理したのをファイルしてある。

「静岡県賀茂郡二科村」△7▽、「長浜部落」文献観察、「伊豆重須村資料」は、宮本常一氏と同行した伊豆西海岸の調査と資料である。二科村のは、浜部落を中心とした漁業や年中行事などの項目別整理ノート。長浜村のは『豆州内浦漁民資料』からの抜き書きと、それに対する自己の解釈をのせている。他に古老より聞いた漁業・若者組・年中行事などをも含む。長浜村に関しては、この他にも同じ資料からの抜き書きノートが三冊ある。重須村のは、田畑所有面積の統計表や、同上資料の抜き書きなどからなる。

「瀬戸内家島」<sup>真浦坊勢</sup>・伊豆安良里・田子・戸田(鯉釣若者)はフイルドノートの形式をとる。家島の調査年代は判然としないが、真浦では集落のこと、坊勢では一年間の女の仕事・味噌・餅などを六頁にわたって聞く。伊豆は昭和十五年四月の記録。安良里はよくまとまっており、鯉組・漁事暦・若者組などを聞く。田子では鯉釣漁、戸田では旧漁業・若者・船などを聞く。

(宝島民俗誌)一七は、同じく宮本常一氏と行なった鹿児島県トカラ列島宝島での調査整理ノート。各種ノートに、系譜・儀礼・言語生活・年中行事・子供遊び・門割・民具・神事制度を項目別に記載し、大要詳しい民俗誌となっている。この他メモ用紙

や地図が多数ある。「宝島民俗誌」としては、宮本常一氏が別にまとめている(『宮本常一著作集』17、未来社、一九七四)が、宮本氏は年中行事を中心にしているのに対して、桜田先生は土地制度や村落構成にも注目している。この一部は「鹿児島県大島郡十島村宝島」△4▽としてまとめられ、発表された。

「越後鱈場漁業調査」「佐渡両津町・金泉町、漁村経済調査」は、出雲崎を中心とする越後漁村の調査整理ノート。どちらも役場資料を参照しているようである。前者は、概観・生業・漁場と漁業権・漁船数と鱈場株数・漁場使用状況などを村落毎に示す。後者は、調査年次ははっきりしないが、三部構成になっている。まず、両津町と金泉村について、それぞれ人口・土地・産業・漁業・漁具・漁業経営費などをまとめている。次に漁家経済について、最後に「三島郡出雲崎町経済調査書(一九三四年度)」の抜き書きを附す。尚、越後鱈場漁業に関しては、これらのノートの他に、古文書集、及び遺稿として発表された「越後の鱈場漁村と其の漁業権」△2▽の原稿がある。

(G・H・Q時代のノート)は、日本文とその英訳とからなる原稿集。「天然資源局ノ漁業制度改革案ニ対スル意見ノ附記」がA4で六枚。「ウラ(浦)の解説」がA4で七枚。他、網組や山当てなどの解説がある。尚、英訳は別の人が行なっている。

「房州鴨川調査」「HINASE, MUROTO(室戸調査)」「北海道江別町・岩手水分村」「四国調査」は、いずれもCIEの調査である。B6判のノートを野帳として使用している。聞き書きや役場などの資料を記している。

「滋賀県蒲生郡苗村調査書」(兵庫県大芋村調査控)も、同じくCIEの調査である。これらは共にばらしたノート紙に項目別にまとめ、束ねてある。前者は漁業に関して、後者は表題にしたノートの他に、家族についてまとめたノートを主とするもの。このノートは、相続・隠居・分家・婚姻・同族団などについてまとめられており、かなり詳しいものになっている。大芋村については貴重な報告がなされているが(「大芋村の葬制と株内」「丹波大芋村のモリ講」<sup>共に</sup>△4▽)、このノートはそれ以外に多くのことをまとめている。

「栃木・下都賀・板荷村」一・二、「栃木・鹿沼木工業」「栃木県下都賀郡山村調査」「宇都宮」一・二も、CIEの調査。山村調査の一環で、フィールドノートになっている。

「古老談話筆記」「府中聞書」「東京府中町近在富沢家日記」は、いづれも『明治文化史生活編』編集のための明治回顧資料である。最初のは「昭和二十七年古老談話筆記一・明治生活史研究会」と題され、原稿用紙につづられている。すでに発表されている何人かの人(例えば「小野はなさんの懐旧談」「輪島のことなど」<sup>共に</sup>△5▽などの被調査者)からの筆記と、「明治生活史研究会各位」へあてた文章とからなっている。この他にも三人の筆記録があり、これらがまとめられて風呂敷に包まれていた。府中での聞き書きは馬場の人から聞いたことを筆記した八枚ほどのノート。最後の日記は、明治年間の内、五ヶ年ほどの毎日の金銭出納帳の写しである。

「粉河記」は、紀州粉河町の粉河寺での聞き書きと、若一王子

桜田勝徳先生資料紹介

大権現祭礼の様子からなる一〇枚程度のフィールドノート。昭和二八年三月八日と十二日の日記がつく。

「ソシアルテンション漁村調査」は、昭和二八・二九年に調査したフィールドノート。二九年一月七日、田子農協や数人からの聞き書きをのせる。

「青梅」は昭和四三年から依頼された緊急民俗資料調査のフィールドノート。昭和四四年八月の上長瀬を中心とする聞き書きなど。ムラ・耕地・農業のことなどを聞く。一〇枚ほどの簡単なノート。

「郷土のたべもの」は、昭和四五年より全国市長会「市政」編集部が調査し、桜田先生が鑑修したもの。全国市町村へのアンケート(季節のもの、漬け物、味噌)の回答がある。未整理。

(阿久根聞書)は昭和四六年一〇月、鹿児島県阿久根市佐潟での記録。漁業のことを二人より聞く。計八枚ほどある。

「漁村探訪手記」は昭和一一年以降行なった漁村調査のまとめ。原稿用紙五〇八枚にわたる大部なもの。調査区域は、広島県地御前・岡山県牛窓・兵庫県家島・伊勢渡会郡・志摩国崎・桑名市外員弁川畔友村・越後漁村各地・会津只見川上流・岩手県上閉伊郡大槌・同吉里吉里・同安波・同白浜・同室浜である。各部落の漁業を概観し、習俗や村落組織まで聞く地域もあり、各地漁村の特色を生かしてまとめている。尚、このように各地の漁村を列挙してまとめたものは、ノートに記されたものだけで、他に三・四冊ほどある。

「鰯網漁業」は、三重県南海村相賀浦と鵜戸村贅浦を中心に、

漁法・乗組員・配分などを記す。

「鯛網漁業」は、兵庫県家島の鯛網漁業を記す。三頁のみ。

「思い出の記」一～六は少年時代の回想録。「東二番丁時代」「秋田時代」「立町時代」「同心町時代」「鳴尾時代」とづく。第五冊目は三頁でおわり、あとは余白になっている。第六冊目には、三〇才の自分という現在から述べている。自分と学問について、今迄の略述と今やりつつあることなどを記す。

桜田先生がこうしたものを記した理由として、そのはじめにこう書かれている。「即ち、不思議な人間を研究する為、その不思議の園にもう少し自在に入り得る道の暗示を求める為、我々の無意識の世界を少しく明らかにしたい野望の為、成人して衰へた、ものの感じ方、眼の力、少年の日の心の生活をいま一度静かに回顧するため、此思ひ出の記をしるしたい。私自身の少年時代の経験もやはり一個の子供生活誌であると思ふ。」尚、これは雑誌『未来』二一〇号（一九八四、三月、未来社）より連載が開始された。「木賊生俳句集」上は、昭和初期の旅の記録とその時のうた、及び「句袋」と称する以前の句集よりの「句袋抄」を基本とする。その他、「父の死」や「昭和二十年三月九日午前十一時」と題する文章、及び疎開した埼玉の農村の思い出をつづった文と句とかなる。

「栃木山村調査講義用」は、最初の九枚ほどは講義ノートとして、調査の理由・結果などを記している。このあとの数枚は、メモとして網についてなど様々なことを走り書きしている。

「一九五九年度講義」は、水産大学の漁村社会学の講義ノ一

ト。四月～五月分が三回ほどある。他に成城大学での講義ノートが二回分ある。

「民族学の方法、志摩国崎宝詰配世帯調査」は二つの主題が交互にまとめられている。一つはシュミットなどのドイツ系文化園学派やデュルケムなどの原始民族の宗教について、及び民族学の歴史及び方法である。もう一つは宝詰配三世帯の家族構成、土地所有・親族付き合いについての一覧表及び長岡村相差・宇塚での同じ調査である。この二つの主題は特に関係があるわけではない。

「民間伝承総論」もまとめ用のノート。民族学についての記述のあと、狩猟・民俗学の境界・船に関する民俗・生産方面（仕立屋・職人）などを記す。ノートのうしろからは、「直会」「建物と日用品（衣・住の）に関するもの」を記す。

「民俗ノ問題・宿題」（問題の整理）は、桜田先生自身関心を抱いていた未解決の問題の要点整理ノート。前者は「近世的村落形成過程上ニ於ケル部屋ト部屋生活ノ意義」「部落労働団トシテ若者組トソノ指導者祭礼ト年中行事ノ相違ニ関スル諸問題」「日本民具試案」などである。後者は「資本主義と社会生活」「麻苧加工」「鳥の問題」や「餅無し正月と芋雑煮の問題」などについての整理と、グレープナーの文化圏説や原始信仰についてのまとめがある。

# 付記

故桜田勝徳先生の研究資料が先生の母校である慶応義塾に寄贈

されることになり、私と川崎史人君がその受領の実務に当った。昭和五十七年七月のことである。我々はこの貴重な資料をなるべく速かに研究の利用に供することが、何にもましてご遺族のご好意にお応えすることであると考え、慶応に移管直後から、早速その整理に着手した。しかし私はたまたまその年の秋から海外留学のため大学を留守にすることになり、結局、川崎君一人がもっぱらこの資料の整理に従事した。だが、同君は薩南諸島の民俗などを研究中であり、桜田資料の整理者としては願ってもない適任者であって、私の協力など必要としなかった。同君はこの一年余の間、自分の研究や講義の余暇を利用して精力的に整理に当り、順調に作業を進めた、既述のとおり、この間『史学』第五三卷二・三号の紙面を借り、とりあえず資料の概要を速報の形で掲載した

が、このたび整理が一段落したのを機会に、主要な目録とその資料の内容紹介をした。桜田先生の業績については周知のとおりで、すでに小川博氏（早大）などによって活字にされてもあり、また今回、寄贈された資料については川崎君の紹介が要を得ているので、以下は今さら蛇足にすぎないが、桜田先生が生涯を傾けられて調査・研究された漁村関係資料や職人関係の資料の中には未刊行のものも少なくなく、かつ、今日再調査しても蒐集不可能なものが多く含まれており、その意味でもこれらは稀有の貴重な民俗資料である。

なお、慶応義塾への寄贈に当り、桜田先生と旧知の仲であった民俗学の碩学関敬吾先生、漁業史の専門家、小川博氏らが仲介の労をとられたことに対し感謝の意を表します。（伊藤清司）

| 資料名                 | 調査年月    | 書式  | 内容   | 備考          | 所収著作集<br>巻名 |
|---------------------|---------|-----|------|-------------|-------------|
| 「向津具の初春」一           | 昭7年2月   | 大福帳 | 日記形式 | 山口県向津具半島    | 6           |
| 「波の橋立」二             | 昭7年2月   | 大福帳 | 日記形式 | 山口県青海島、萩、大島 | 6           |
| 「六島の姿」三             | 昭7年2月   | 大福帳 | 日記形式 | 山口県相島、特牛、角島 | 6           |
| 「島の山村」四             | 昭7年2、3月 | 大福帳 | 日記形式 | 山口県蓋井島      | 6           |
| 「志賀島記」              | 昭7年7月   | 大福帳 | 日記形式 | 福岡県志賀島      | 一部<br>6     |
| 「筑前巡島記―相島・大島・地島の巻―」 | 昭7年7月   | 大福帳 | 日記形式 |             |             |
| 「松浦の島々」             | 昭7年8月   | 大福帳 | 日記形式 | 佐賀県東松浦半島    | 6           |
| 「江島平島記」             | 昭7年8、9月 | 大福帳 | 日記形式 | 長崎県江島・平島    | 6           |
| 「八女紀行」              | 昭7年12月  | 大福帳 | 日記形式 |             | 6           |
| 「甕島紀行」一、二、三         | 昭8年1月   | 大福帳 | 日記形式 |             |             |
| 「早良・糸島の春」           | 昭8年3・4月 | 大福帳 | 日記形式 | 福岡県早良・糸島    | 6           |

「筑紫五ヶ山・日向峠・再び志賀島」

「日田紀行」

「瀬戸内海記」一

「出水の海」

「不知火海」

「博多付近・近江の魼・肥後田島」

「肥前の山」

「肥後めぐり・椎葉紀行・付阿蘇登山記」

「十島巡遊・奄美大島」

「隠岐手帳」一・二

「八束の海辺」

「大隅百引記」一・四

「小豆島及び大阪」

「大阪手記二―歌垣村記」

「南河内天野村・泉州ニ入ル出稼人」

「土佐漁村」I

「漁村室戸」

「揖斐記」一・三

「美濃徳山村調査」

「山村調査・岡山県上刑部村」

「志摩和具調査控」

「岩手普代村」一・二

「岩手重茂村」

「静岡県賀茂郡二科村」

昭8年4月

昭8年5月

昭8年6月

昭8年8月

昭8年8月

昭8年秋

昭8年12月

昭9年2・3月

昭8年3月

昭9年5月

昭9年5月

昭9年5月

昭9年10月

昭9年10月

昭9年12月

昭10年2月

昭11年春

昭11年春

昭11年5月

昭11年5月

昭11年8月

昭12年7月

昭13年

昭13年

昭15年4月

ノート

ノート

ノート

大福帳

大福帳

ノート

ノート

大福帳

ノート

ノート

ノート

ノート

ノート

ノート

ノート

ノート

ファイル

ノート

ファイル

ファイル

ノート

ファイル

ファイル

ノート

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

日記形式

整理ノート

整理ノート

日記形式

整理ノート

原稿

整理ノート

整理ノート

整理ノート

整理ノート

(山村調査)

(アチックミュージ엄調査)  
(アチックミュージ엄調査)

岐阜県徳山村

(山村調査)

(山村調査)

一部

(海村調査)  
(海村調査)

一部

|                                   |          |      |       |               |
|-----------------------------------|----------|------|-------|---------------|
| 「長浜部落…文献観察」I                      | 昭15年4月   | ノート  | 整理ノート |               |
| (伊豆重須村資料)                         | 昭15年4月   | ファイル | 整理ノート |               |
| 「瀬戸内家島真浦坊勢、伊豆安良里、田子・戸田」<br>(鯉釣若者) | 昭15年4月   | ノート  | 整理ノート |               |
| (宝島民俗誌) 一七                        | 昭15年5、6月 | ノート  | 整理ノート | 鹿児島県トカラ列島     |
| 「越後鱈場漁業調査」                        | 昭17年3月   | ノート  | 整理ノート |               |
| 「佐渡両津町・金泉町、漁村経済調査」                |          | ノート  | 整理ノート |               |
| (G・H・Q時代のノート)                     |          | ファイル | 原稿    |               |
| 「房州鴨川調査」                          | 昭22年10月  | ノート  | 野帳    | (CIE漁村調査)     |
| 「HINASE, MUROTO」                  | 昭22年     | ノート  | 野帳    | 岡山県日生、高知県室戸   |
| (室戸調査)                            | 昭22年     | ノート  | 野帳    | (CIE漁村調査)     |
| 「北海道江別町、岩手水分村」                    | 昭24年     | ノート  | 野帳    | (CIE漁村調査)     |
| 「四国調査」                            | 昭24年9月   | ノート  | 野帳    | (CIE農村調査)     |
| 「滋賀県蒲生郡苗村調査控」                     | 昭24年11月  | ファイル | 整理ノート | (CIE農村調査)     |
| (兵庫県大芋村調査)                        | 昭24年11月  | ファイル | 整理ノート | (CIE農勢調査予備調査) |
| 「栃木・下都賀・板荷村」一・二                   | 昭25年3月   | ノート  | 野帳    | (CIE国勢調査予備調査) |
| 「栃木県鹿沼木工業」                        | 昭25年3月   | ノート  | 野帳    | (CIE林業調査)     |
| 「栃木県下都賀郡山村調査」                     | 昭25年4月   | ノート  | 野帳    | (CIE林業調査)     |
| 「宇都宮」一・二                          | 昭25年7月   | ノート  | 野帳    | (CIE林業調査)     |
| 「古老談話筆記」                          | 昭27年     | ファイル | 整理ノート | (CIE林業調査)     |
| 「府中聞書」                            | 昭27年     | ノート  | 野帳    | (明治回顧)        |
| 「東京府中町近在富沢家日記」                    |          | ファイル | 整理ノート | (明治回顧)        |
| 「粉河記」                             | 昭28年3月   | ノート  | 野帳    | (明治回顧)        |
| 「ソシアルテンション漁村調査」                   | 昭28・29年  | ノート  | 野帳    | 和歌山県那珂郡       |
| 「青梅」                              | 昭43、45年  | ノート  | 野帳    | 静岡県田子浦        |
|                                   |          |      |       | (民俗緊急調査)      |

「郷土のたべもの」

昭45年10月

ファイル アンケート

(阿久根聞書)

昭46年10月

ノート 野帳

鹿児島県阿久根

「漁村探訪手記」

ファイル 原稿

(アチックミューゼマノム調査)

「鰯網漁業」

ノート 整理ノート

「鰯網漁業」

ノート 整理ノート

「思い出の記」一、六

ノート 整理ノート

「木賊生俳句集」上

和綴 整理ノート

「栃木山村調査講義用」

ノート 整理ノート

「一九五九年度講義」

ノート 整理ノート

「民族学の方法・志摩国崎宝詰配世帯調査」

ノート 整理ノート

「民間伝承総論」

ノート 整理ノート

「民俗ノ問題・宿題」

ノート 整理ノート

(問題の整理)

ノート 整理ノート